

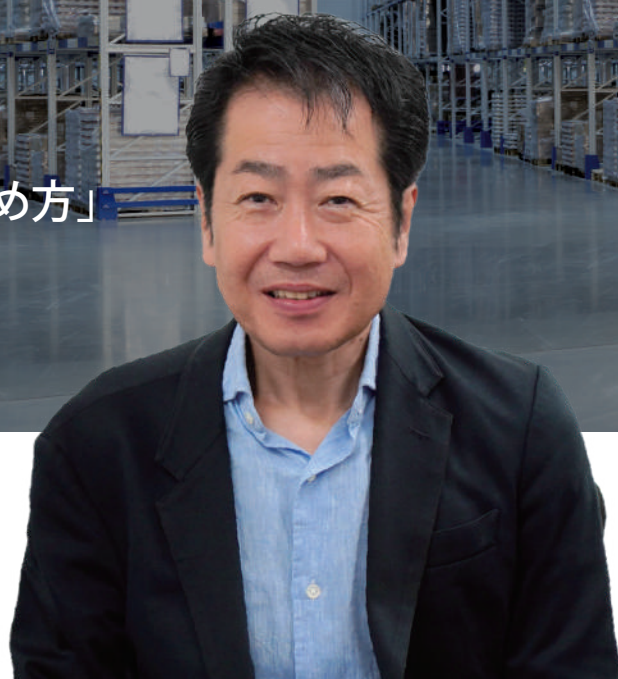
Interview  
with **FA.COM**

# How to proceed Logistics DX

物流の専門家に聞く  
「顧客起点のロジスティクス DX の進め方」

[後編]

Editor : Miki Takeda (Office FA.COM)



インタビュアー・武田美樹  
(以下武田) ..

こんにちは。本日もよろしくお願ひ致します。前回のお話では、今の時代はとにかく「パーソナライズ」がキーワードとなっていることが伺えました。「O」とサプライチェーンが組み合わさったサービスとなると、物流の方向というか、川上とか川下とか、そういった概念がもはや無くなるような気がするんですけどいかがでしょうか。

石田正人(以下、石田) ..

その部分についてはあまり小難しいことは言いたくないのですが、前回から申し上げたように消費者のニーズは多様化する一方、カスタマイズした商品をすぐ手に入れたい、など消費者のわがままを満たす、顧客に満足を与える手段には、川下に必要な在庫を配置するということが求められます。

そこで一定のカスタマイズや組合せ、魅力的な商品提供に流通加工するなどの様々な流通過程でのサービスが求められるようになれば、これまでの強固なサプライチェーンの構造では立ち行かなくなることです。

もっとフレキシブルに物流の担い手が連携し、その役割を担っていく構造が求められ、それがフィジカルインターネットであり、その企業のオープンな結びつきをダイナミックに変化させ、柔軟に要求にこたえられるような仕組みがサプライウェブには求められると  
言いたいです。

武田 ..

サプライウェブ、供給が蜘蛛の巣のように縦横無尽に、しかもインターネット上でのデータが連携するということですね。

それがもしかして、「DX」ってやつですか？(笑)

石田 ..

そうですね。DXという代名詞が便利なので、物流デジタルトランスフォーメーションと言われているようです。

一言で表すとカッコいいし、何か分かった気になります。何が本当に理解している人はどれだけいるんだろうと思うかもしれません。

**自社の最大の顧客満足を描くための自動化への道筋**

武田 ..

私自身もまだよく分かって

**サプライチェーンは縦横無尽へ**

今回はその後編。「物流DX(デジタルトランスフォーメーション)」の核心部について迫ってみたいと思います。

いないですが確かに「DX」という言葉は見えない日が無いくらい多用されているので、私も使ってみたい気がしちゃいます。(笑)

石田..  
それではお時間も少なくなってしまうので、最後の質問をさせて頂きます。これから物流関連のDXに取り組みうと思ってる企業にとって、重要になるポイントはどこでしょうか。

石田..  
まず、自らのお客様を理解し、お客様に自社で提供できる価値は何か?を突き詰めて考える必要があります。その上で、全体最適を目指して、如何にこの人材不足や人件費が上がり続ける物流業界において顧客満足を確認するか?それらを考えれば、製造業も流通業も自動化の波は避けて通れませんが。

武田..  
それらを加味すると、ベテラン社員の属人化してきたノウハウを形式知化することの出来ない技術であり、これを巧みに使いこなすソリューションを上手く取り入れてシステム化することの重要性が見えてくるはず。

因みにその一役を担う気概について、是非お気持ちを最後に聞かせて頂ければと思います。

石田..  
ロボットStarにて多くの実績を積み重ね、ひいては物流センター全体の最適化に対するご用命を頂くようになった今日、各作業エリアの自動化から全体構想に關わるご相談をいただけるようになり、トータルシステムにおいて最適な設計を提案させていただけるようになりました。

武田..  
今後もお客様に価値を提供できる企業を目指して躍進していきたいと思えます。本日はありがとうございました。

## サプライウェブ

従来のサプライチェーンでは、原材料からメーカー、小売といったように川上と川下の区別が明確であり、「鎖」のように繋がっている。しかし、サプライウェブではあらゆるプロセスを繋げて本来必要のないプロセスを省くことにより、「ウェブ(蜘蛛の巣)」のように縦横無尽に繋がる様子を示す。

